

学校と地域が連携した校庭芝生化の取り組みについて

―活動事例等を踏まえた推進方策―

地域教育推進ネットワーク東京都協議会

教育環境整備部会校庭芝生化検討委員会

平成21年3月

目 次

I 校庭芝生化における地域との連携の必要性

- 1 校庭芝生化の現状 1
- 2 地域との連携の必要性 1
 - (1) 地域との連携はなぜ有効か
 - (2) 芝生への愛着
 - (3) 日常の観察と管理
 - (4) コミュニティ活動の発展
- 3 今後の校庭の芝生並びにコミュニティ活動の発展 2

II 学校・地域が一体となった練馬区立中村小学校の取り組みについて

- 1 中村小学校における「校庭芝生化」推進の経緯 3
 - (1) 親父の会が中心となった芝生化の取組
 - (2) 東京都の施策と連動した運動場全面芝生化
- 2 校庭の芝生化を推進する、学校と地域の連携の仕組づくりについて . . 3
 - (1) 校庭芝生化における学校と地域の連携の必要性
 - (2) 中村小グリーンキーパーズの立ち上げ
- 3 学校と地域の役割分担と主な活動 4
 - (1) 「合同芝生定例例会」の開催
 - (2) グリーンキーパーズ等、芝生の維持・管理の実際
- 4 校庭の芝生化に地域が関わる効果 6
 - (1) 芝生化による子供たちのへの影響
 - (2) 広報活動の推進・充実
 - (3) 芝生を活用した地域行事の取組
- 5 校庭の芝生化を生かした地域コミュニティの再生と地域教育力の向上 . . 8

III 学校と地域が連携したその他の活動事例

- 1 杉並区立和泉小学校の活動 8

2 地域連携を推進するための教育委員会の役割	10
IV 保護者、地域が関わる校庭の芝生化の取り組みについて	
1 はじめに	10
2 芝生化に協力する地域組織を立ち上げるために	10
(1) 校庭芝生化を進めるための「話し合い」について	
(2) 芝生の実態を把握する	
(3) 校庭芝生化の先進事例の視察	
(4) 組織づくりに向けて	
3 活動を充実・発展させていくための組織の育成、ネットワークづくり	13
(1) 地域が中心になった組織づくり	
(2) 効果的な芝生管理組織づくりに向けて	
(3) 地域組織のネットワークづくり	
V 参考資料	
都内公立小・中学校における校庭芝生化の地域等々の連携状況について	15
VI 校庭芝生関係団体、学校等の連絡先等	27
VII 地域教育推進ネットワーク東京都協議会	27
教育環境整備部会（校庭芝生化委員会）の委員名簿	

I 校庭芝生化における地域との連携の必要性

1 校庭芝生化の現状

校庭の芝生化について、東京都では昭和48（1973）年から五ヵ年計画で全都立学校の校庭面積の2分の1を芝生化する計画を進め、文部省も同年から五ヵ年計画で「学校環境緑化促進事業」を開始した。この時期に芝生化された学校の中には今日まで良好な芝生が維持されている所もあるが、施工後ほどなく芝生が消滅した学校も少なくない。

このため、その後しばらく下火となっていたが、21世紀を迎える頃から再び全国的に芝生化の動きが活発になってきている。

東京都では平成17（2005）年度の重点事業において公立学校校庭の芝生化等をモデル的に実施し、2006（平成18）年に策定された「10年後の東京」では都内の公立小中学校および都立学校等の校庭を芝生化し、約300haの緑を生み出すことが計画されている。

文部科学省も屋外教育環境整備事業の一環として校庭の芝生化を助成しており、他の自治体でも校庭芝生化を推進している所が増えている。また財団法人、NPO、各種団体、民間会社、個人などが校庭芝生化のために費用、労力、知識などを提供することも多くなっている。このような社会情勢の中で芝生化は少しずつ進展してきており、全国の小中学校で運動場に芝生のある学校は4%強となり、東京都内の公立・小中学校でも約120校（平成20年度末現在）で校庭芝生化の取り組みが進められている。

2 地域との連携の必要性

（1）地域との連携はなぜ有効か

校庭の芝生化には多数の人から大きな期待が寄せられる一方で、反対の声も少なくはない。芝生化を反対する理由の主なものは、①大きな費用を掛けても擦り切れてなくなってしまうのでは、②校庭の利用が制約されるのでは、③管理に手間が掛かるのではないかなどである。

児童・生徒の参加ならびに地域との連携はこれらの問題を解消する鍵となる。

（2）芝生への愛着

芝生の施工時や養生時には、その部分の使用が制限される。このため、児童・生徒や校庭開放利用団体等からの不満が生じることがある。しかし、皆が参加して芝生を管理している学校ではこのような不満が少ない。芝生が大切か子供が大切かという議論を持ちかけられることもあり、たしかに芝生の維持だけを優先して子供達の利用ができないような状況は問題があるが、自分達で芝生を育てている学校では芝生の芽出し、雨天時、傷んだ時などに、今は踏むのを控えようという意識がある。

（3）日常の観察と管理

芝生の管理には専門的な知識と共に、日常の観察や手入れが重要である。基本的な管理計画の策定や特殊な作業は専門業者に任せる必要があるが、病気などの異変に早く気づいたり、傷んだ箇所を素早く補修したりするには芝生の利用団体等の地域が芝生管理に関わっていく必要がある。

(4) コミュニティ活動の発展

管理に手間の掛かることは芝生化の問題点とされ、芝生管理の担当を任された教職員や PTA 役員などへの負担感が大きい。しかしながら自主的な参加によって芝生管理組織ができてきた学校においては芝生管理作業は負担ではなく、むしろ楽しみと受け取られている。

押し付けられて行う作業は労務となるが、皆で行う作業は楽しみともなる。芝生の植え付けや芝刈機の操作は子供にも大人にも興味の沸くものであるし、皆が集まって子供と大人、学校の中と外でのコミュニケーションができることも楽しいことである。

地域の人が集まることによって知恵が集まり、情報交換が行われ、新しい企画が生まれている。PTA などが実施する他の企画に比べて、芝生管理は父親の参加が多いのも特徴である。芝生管理をきっかけに地域の多様な人材が集まることにより、スポーツイベント、キャンプ、野外映画会、野点、音楽会など様々な行事が実施された事例がある。このような企画を実行するには専門的な知識を持っている人や多数の協力者が必要であるが、芝生管理をきっかけとして人が学校に集まるのが人材の発掘にも役立っている。

3 今後の校庭芝生並びにコミュニティ活動の発展

本書では、上述のような取り組みを实践された学校の事例を紹介する。彼の学校ではたまたまそのような特技や人脈を持つ人がいたからできたので、私の学校では無理だと言われることもある。しかしどの学区域でも何かしらの特技や人脈を持つ人など潜在的な人材はいるはずである。学校と地域との連携が濃密になれば人材の発掘と活用にもつながる。つながりができ始めれば活動は拡大していく。立ち上げの 때가最も難しいことだと思われる。地域の団体や個人は初めの声かけ次第で協力者ともなり、反対者ともなり得る。

本文に紹介する活動事例は、これから保護者や地域が参加して校庭芝生化や他の学校教育支援活動を始める学校の関係者に参考になるものと考えている。しかし、同じやり方をする必要は無いし、同じやり方が適切とは限らない。各校の事情に応じて新しい方法を考えていく必要がある。そして実践の結果は周囲に発信してほしいと思う。他校との情報交換の中からまた新しいアイデアが生じてくることと思う。

自校関係者による活動が軌道に乗るまでは、近隣あるいは遠方からでさえ芝生化の応援に駆けつける者達が今の社会には控えており、相談の窓口はあちこちに開かれている。

本まとめが校庭芝生化の端緒や管理運営に少しでも役立つことがあれば執筆者一同の喜びである。

今後、一層の校庭芝生化のネットワークがさらに充実していくことを期待したい。

(日本芝草学会校庭芝生化部会長 藤崎健一郎)

Ⅱ 学校・地域が一体となった練馬区立中村小学校での校庭の芝生化の取り組みについて

1 中村小学校における「校庭芝生化」推進の経緯

(1) 親父の会が中心となった芝生化の取組

親父の会の有志が、自分たちと自分の子供たちの心の“ふるさと”となる学校に何かを残したいという気持ちを抱き始めた。美しい緑の芝生に寝転んで青空を見上げている子供たちの姿、笑顔を思い描き、校庭の芝生化計画が話題となった。そして、平成15年「親父の会」を母体に「中小の校庭を芝生にする会」が発足した。校庭芝生化構想を校長と話し合い了解を得、また保護者の理解と支援を得て、校庭西側(約300㎡)、校庭東側(約300㎡)、校庭南のフェンス脇(約300㎡)と、三度の工事を経て校庭の一部を芝生化した。

(2) 東京都の施策と連動した運動場全面芝生化

その後、東京都のヒートアイランド対策等の施策の一環として校庭の全面芝生化の話しが持ち上がった。当初、「中小の校庭を芝生にする会」は校庭の全面芝生化導入に対しては消極的であった。学校も児童数が多いことと校庭の過密な利用状況を考えると全面芝生化は難しいと考えていたが、さまざまな経緯を経て、練馬区初の全面芝生校庭に向け進むことになった。

具体化した段階で保護者や地域に情報公開や説明会を行ったが、保護者、地域住民の中にも全面芝生化に対する懸念や反対する声も出された。約一年半にわたる行政、学校、保護者、校庭利用団体、地域住民による意見交換会を積重ねた。

その結果、「子供たちのことを考えて芝生にすること」を大前提とし、学校や保護者側の要望(工事期間中の対応や維持管理設備の設置、管理費用の継続、専門家のアドバイスなど)を整えることなどを条件として、芝生化工事が始まった。そして平成18年3月に当時都内最大級の3,200㎡の芝生校庭が完成した。

2 校庭の芝生化を推進するため、学校と地域の連携の仕組づくりについて

(1) 校庭芝生化における学校と地域の連携の必要性

中村小学校における校庭の芝生化は、学校だけの取組では実現できない

ものであった。校庭は教育活動の場であるとともに、地域行事・活動の重要な場所であると考えられるので、芝生化推進のためには地域の理解と協力が必要となってくる。そのためには PTA や町会、利用団体など保護者を含めた地域の方々への説明は、きわめて重要であった。そこを出発点として、連携の仕組みを考えてきた。

校庭の芝生は観賞用ではなく、その上で運動するための芝生である。子供たちの活動に支障をきたさないようにし、教育の一環、生活の一部として芝生と向き合いながら、使える芝生を目指し維持管理することが必要である。

(2) 中村小グリーンキーパーズの立ち上げ

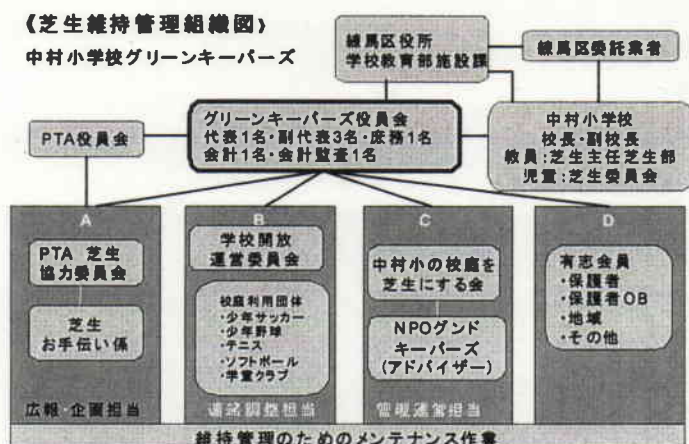
そこで学校、保護者・PTA、各校庭利用団体（少年野球・少年サッカー・父親ソフトボール・少女テニス・学童クラブ）、保護者の OB、地域の有志などそれぞれの立場の者で構成され、皆で協力して芝生を維持管理する組織「中村小学校グリーンキーパーズ」を立ち上げた。そして、各構成団体の代表者による役員会が中心となり活動を始めた。

校庭の芝生化が決まり、平成 17 年 6 月 18 日、芝生化の経緯や工事期間などの第一回説明会に始まり、第三回目の説明会から芝生準備委員会と名称が変わった。11 月 26 日、校庭芝生運営委員会発足 2 回の準備委員会の後、平成 18 年 2 月 28 日「中村小学校グリーンキーパーズ」（略称：NGK）と名称を変更し発足した。

3 学校と地域の役割分担と主な活動

(1) 「合同芝生定例会議」の開催

さまざまな立場で芝生に関わる人たちが、芝生の状況を確認し、情報を共有し、翌月の利用方針や活用方法、メンテナンス計画について話し合いをする。そして、共通認識を持って翌月の見通しを立てられるよう、練馬区担当者（学校施設課）、委託業者、学校（校長・副校長・教員 2 名）、校



庭利用団体代表者（少年野球・少年サッカー・父親ソフトボール・少女テニス・学童クラブ）、グリーンキーパーズおよび有志が一堂に会し、誰でも参加できる月一回の「合同芝生定例会議」を開催している。

毎月の会議に基づいて維持管理を行いながら、様々

な状況に直面するたびに、その都度試行錯誤を繰り返し対応してきた。芝生は生き物であり日々の観察が大切であること、また、問題が起こったときは適切な処置をすぐに行うこと、などが必要であると分かってきた。使える芝生を維持していくためには、芝生の状態が異常だと感じたときは、すぐに行政担当者に伝えるよう努め、緊急時には行政・専門業者による素早い対処が出来るよう要望し、行政もそれに対応してくれるようになった。このような経緯のもと、現在は毎週、利用方針を細かく検討するようになっている。

(2)「グリーンキーパーズ」等、芝生の維持・管理の具体的な取組

グリーンキーパーズは毎月第二日曜日に定例会を開き、メンテナンス作業の内容や活動方針などを話し合い、専門家のアドバイスを受けながら総合的な管理を担当している。メンテナンス作業の多い4月から9月末までは、週に一回の作業日を設け一部の方に負担がかからないように、より多くの方々の作業への参加を呼びかけている。

現在のメンテナンス作業の分担は、学校では教員の中で芝生部を組織し、維持管理や利用方法の調整などを行っている。児童会は5・6年生の委員会活動の一つとして芝生委員会を立ち上げ、自分たちでできるメンテナンスを行っている。

※芝生の維持管理作業に関わる子供たちの発言

- ・芝生委員会の児童からは、「芝生委員会で学んだことは、協力です。みんなでやらないとできません」
- ・「石拾いや補習作業など、みんなが一日でも多く遊べるようにがんばった」

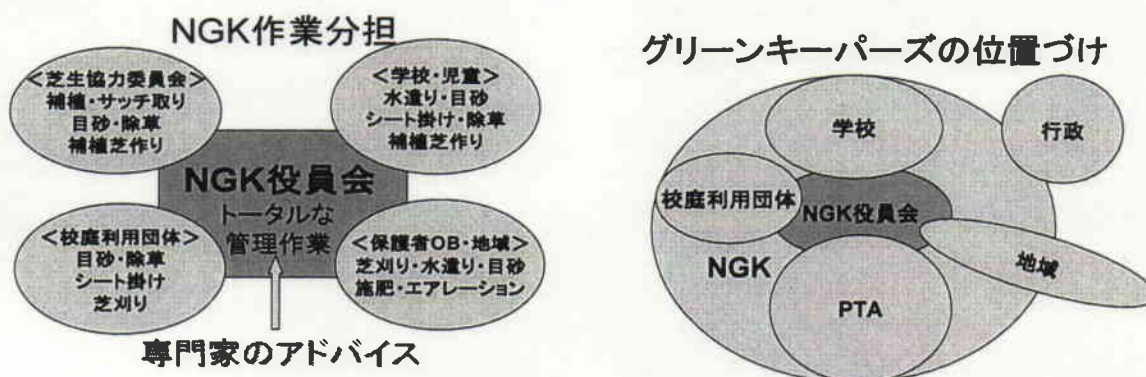
など、芝生の育成の活動に子供たちが関与することで、主体性や協調性などの育成の一助になっている状況も伺える。

P T Aは、グリーンキーパーズと連動する形で「芝生協力委員会」を立ち上げ、毎週水曜日にメンテナンスを行っている。校庭利用の各団体は、校庭利用の前後にメンテナンス作業を実施している。このよう形で、現在はいま作業分担ができていられると思われる。

子供たちが最適な環境で教育を受けられるように、保護者や地域・関係団体などが協力して、メンテナンス作業をよりスムーズに実施出来るように努めている。「芝生の維持管理＝大変である」という意識をやわらげることや、子供たちの活発な活動と笑顔を見守り、楽しく芝生に関われることを目指している。そして、校庭の芝生に関わることを足懸かりに、開かれた芝生校庭、心のふるさととなる学校を核として、保護者や住民が地域での交流を深め、



連帯感を高めていくことが大切である。このようなことが、笑顔あふれる安心で安全なまちづくりにつながっていると思う。



4 校庭の芝生化に地域が関る効果

(1) 芝生化による子どもたちの影響

芝生の校庭が出来上がってみると、子ども達の遊び方に大きな変化が見られるようになった。元気に外で遊ぶ子どもが増え、走ったり寝転んだり、夏には裸足で遊ぶなど遊具を使わない遊びが増えた。

学校も「芝生で楽しく、芝生となかよく、～芝生校庭を生かした教育活動の創造～」をテーマとし、芝生主任の教員を中心に、全校で芝生に取り組み、芝生を生かした教育活動を実施している。休み時間になると芝生を走り回り転がっている子供たちの姿がとてもまぶしく感じる。

そんな子どもたちの姿や教育活動を見ているにもかかわらず、地域の方の中には芝生校庭に好意を持っていない方もいることもあり、グリーンキーパズは子供のための芝生であることを柱に、地域の理解が得られるよう努めている。

(2) 広報活動の推進・充実

広報活動として、グリーンキーパズはホームページ「なかしばコミュニティ (www.shibafu.jp)」を立ち上げ、さまざまなイベント情報・メンテナンス情報・芝生関連の情報・写真・お知らせ等を学校のHPとリンクし、情報発信を行っている。またマスコミの取材にも対応し、正確な情報を発信してきた。日本芝草学会校庭芝生部会開催の校庭芝生見学会や平成19年10月に東京都教育委員会等が主催した「芝生フォーラム」に参加し、中村小学校の校庭芝生化の現状、中村小学校グリーンキーパズの紹介をしてきた。

更に PTA の芝生委員会は全保護者対象に「なかしば通信」を配布し、メンテナンスの予定・芝生やイベントの情報などを発信、学校からは全保護者と地域町会（回覧板350部）を対象に「学校便り～芝生ニュース～コーナー」を配布し、芝生に関連する児童の活動の様子、学校の取組、芝生定例会の報告などの情報発信をしている。

(3) 芝生を活用した地域行事の取組

いろいろな方々が芝生に関われるよう様々なイベント（ファミリーグランドゴルフ大会・芝刈り講習会・春の野点・校庭キャンプなど）を開催し、少



しでも芝生に関わり、理解してもらおうと取り組んできた。芝生を使ったイベントというとスポーツ中心になりがちだが、芝生の上でいろいろな遊びを行い、時には芝生のことについて楽しく学べる講習会、野点の会や校庭キャンプなども開催し、工夫しながら芝生に対する意識改革を積み重ね

ることに努めてきた。

芝生を楽しむ催しに、出来るだけ地域の方々も参加していただけるようにと平成20年3月末に開催した野点の会では、ちょうど桜の咲く時期の春休みに地域の中村中学校の茶道部の生徒の協力および町会婦人部の方々のご協力を得ることが出来た。そして学校へは、普段ほとんど来校しない方々の参加もあり、予想以上の反響だった。小学生、中学生、地域の大人たちと世代を超えた交流が生まれ、伝統や文化を次世代に伝えていくよいきっかけになったと思う。

また、平成20年8月には地元町会・お隣の町会・青少年委員会・中村児童館・練馬地区ボーイスカウト・練馬地区ガールスカウト・練馬消防団第8分団など地域の方々の多大なるご協力をいただき、芝生の校庭でお泊りキャンプを開催した。参加者の自主企画、運営という形をとり、「子ども



が中心で活動を行うこと、大人たちは子供たちを見守ること」というコンセプトで参加型のイベントを目論みたが、地域の方や参加する大人たちに、もう少しねらいを周知徹底する必要があると思われた。次回からは子供たちも企画段階から参加させ、地域の協力者も合同で全体の話し合いが出来るようにしたいと思っている。しかし今回の企画は今までになく、日頃学校行事や地域活動にほとんど参加しない父親たちの参加を促すことができ、子供たちの活動を地域の大人たちとともに見守ることで、家族の絆の再認識や保護者間・地域とのコミュニケーションが生れ、地域活動について考える良い機会となったと思う。

少しずつではあるがその成果が現れ、理解者や協力者が徐々に増えてくるとともに、学校の芝生校庭を核とした地域コミュニティの形成に寄与している。

5 校庭の芝生化を生かした地域コミュニティの再生と地域教育力の向上

これまでも、(中村中学校・地元町会・近隣町会・おやじの会・青少年委員会・中村児童館・練馬地区ボーイスカウト・練馬地区ガールスカウト・練馬消防団第8分団など)地域の方々の協力を得ているが、更に連携を密にし、新しい取り組みで子どもたちの健やかな成長に役立つ活動を続けたいと考えている。

現在は、近隣の地域以外にも情報交換のネットワークを広げ、区内外の校庭芝生化を推進している学校の地域団体(杉並区立和泉小学校グリーンプロジェクト、杉並区立桃井第五小学校芝生を育てる会、桃井第五小学校おやじの会、板橋区立金沢小学校グリーンキーパーズ・金澤クラブ、小平市立小平第十三小学校など)との連携をとることで、更に活動の幅が広がり、豊になってきた。

地域ぐるみで、学校行事や地域の活動を行うことで、地域コミュニティが復活・再生し、地域住民間のコミュニケーションが広がると考える。

地域での顔見知りが増え、皆が挨拶を交わすことにより、他人の子供でも叱ることができるような環境が生れ、子供たちも近所の大人と認識し、安心して生活できると思う。地域活動について考える機会を増やし、地域住民のコミュニケーションの場を提供することにより、地域住民が助け合うという意識がより強固になるのではないだろうか。そしていざという時は、地域の協力、助け合いは防災・防犯・防火に対し非常に心強いものとなる。

また地域で声を掛け合うことで安心安全な街づくりにつながると考えている。以上のように、私たちの活動は学校という枠だけに留まらず、地域を一体と捉え、学校を中心とした地域社会の復活再生を目指しているのかもしれない、「中村小学校グリーキーパーズ=地域住民全員」となることを理想としてこれからも活動が続けていこうと考えている。我々の活動は芝生の維持管理だけにとどまらず、まさに「地域再生の過程である」と思う。

(練馬区立中村小学校長 中島修一)

(中村小学校グリーンキーパー代表 名川一史)

Ⅲ 学校と地域が連携したその他の活動事例

1 杉並区立和泉小学校の活動

杉並区立和泉小学校は、子どもたちが積極的に外で遊びたくなるような、より良い教育環境を提供するために校庭の全面芝生化を決断した。そして、平成14年3月に東京都で初めて、小学校の全面校庭芝生化が完成した。

当時、和泉小学校では、「ふるさと和泉、地域の中にある学校」、「子ども一人一人を大切に、笑顔の輝く学校」をテーマに教職員一人ひとりが意欲的に活動を行っていた。そして平成13年度、新たな取り組みとして、「校庭の芝生化」

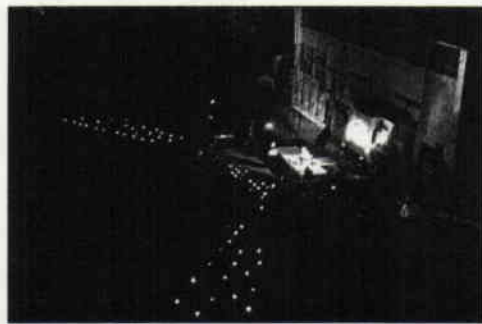


にチャレンジする事となった。導入にあたり、教職員で何回も話し合い、他県の芝生実施校の見学も行い、子どものためになると確信し、教職員の総意として方針を決定した。

その後、教職員が一丸となって、芝生の良さをアピールするために、保護者への説明を行った。しかし、保護者からは、「管理をどうするのか?」、「農薬は使用するのか?」、「工事中の体育はどうするのか?」等、色々な疑問があがってきた。教職員だけでは、とても解決出来そうにないこともあり、当時の校長先生が、和泉小学校に関わりのある方々（PTA役員、おやじの会、校庭利用団体、卒業生の会、町会等の代表者クラスの方）に呼びかけ、問題を一つ一つ解決していく事とした。この集まりがその後の芝生管理組織「和泉グリーンプロジェクト」（以下「和泉GP」）の基となる組織のスタートとなった。

和泉GPは、子ども達に、いつまでもこのすばらしい環境を使い続けてもらえる様にと、組織を立ち上げ活動を行っている。

和泉GPは、最初から、今の組織が確立されたわけではなく、毎年、少しずつ改善・改革を行って、今でも進化し続けている。



芝生校庭でのコンサート

当初、芝刈りなど管理作業に参加するメンバーは、PTAの役員と芝生に興味を示した保護者、校庭利用団体の一部の人たちで、ほとんど同じメンバーが毎週顔を合わせていた。しかし、和泉GPは、地域の方々が誰でも参加できる受け皿となるように、設立時より町会長に代表をお願いするなど地域と一体になった組織作りをしてきた。また、町会主催の節分祭、児童館主催のミラクルタウン等、地域イベントの会場として校庭を提供。また、和泉GP主催のイベントとして芝生の上で、映画鑑賞会、コンサート等を毎年行い、芝生の良さを実感していただき、保護者や地域の方々に理解を深めるようにしてきた。

しかし、欧米諸国に比べ日本の芝生文化は遅れていて、保護者の中には、まだまだ、芝生に対するマイナスイメージを持たれている方がおられる状況があった。そこで、和泉GPでは、芝生の情報を積極的に公開し、また、正しい情報を伝えるために専門家を招き勉強会を行うなどして、芝生のプラス情報を伝えている。

今では、イベント開催時は、町会や近隣商店街の協力を得てPR活動もしっかり行へ、多くの方へ情報を発信出来るようになった。地域との連携は年々広がり、確実に実を結んできている。保護者全体にも芝生の良さが浸透し、参加しやすくなるキャンペーン企画なども定着してきて、年々芝刈りへの参加者が

増えてきた。

メンバーの中には、設立当時は、PTAの一員だったが、8年も経過すると子どもは卒業。しかし、そのまま組織に残り、今も地域の一員として汗を流している人がある。

こうして、和泉GPは、家庭・地域・学校が一体となった運営を続けている。

2 地域連携を推進するための教育委員会の役割

杉並区教育委員会では、平成18年度より校庭芝生化実施校・予定校の校長先生と管理組織の代表とが一同に集まり、年に1～2回情報交換会を行なっている。

新設校や予定校にとって、不安・疑問が多くあり、その問題を先進校から直接回答・アドバイスをもらえる事は、非常に助かる。

この様な、区市町村が核となった地域連携のサポートも芝生化事業推進の重要な施策と考えている。

(和泉グリーンプロジェクト 池田弘彦)

IV 保護者、地域に係る校庭の芝生化の取り組みについて

1 はじめに

これまで校庭の芝生化に地域や保護者が関わることへの意義や効果等について活動事例等で紹介したが、ここでは、「地域の芝生化に協力する組織等を立ち上げるための方策」「活動を充実・発展させていくための組織の育成、ネットワークづくり」など、マネジメントの観点から述べてみたい。

2 芝生化に協力する地域組織等を立ち上げるために

(1) 校庭芝生化を進めるための「話し合い」について

芝生化検討の呼びかけが学校、地域のどちらから行われたとしても、もっとも重要なのは「話し合い」の開催である。「話し合い」など当たり前と思われるかも知れないが、「芝生」そのものの議題について専門の知識を持たない者同士の会議を効果的に運営するのは難しいものである。何を議論するのかを議論しているようでは、参加者の関心も薄れる。技術的な話題は後にして、芝生化についての共通知識づくりから始めたい。

(2) 芝生の実態を把握する

芝生の持つ効能（Ⅰ～Ⅳ）などから入れば、目的や効果を理解できるし、参加者相互の話題にもなる。続けて都の校庭芝生化政策の内容や先進事例校の取り組みなどインターネット等で入手可能な資料を利用し共通知識づくりを進める。参加呼びかけはPTA、自治会、校庭開放利用団体など広く声をかけていくことが必要である。最近はおやじの会などが積極的に協力している例も多い。

芝生の持つ効能Ⅰ

環境への効能

- | | |
|--------------------|----------|
| 1 土壌侵食制御 | 2 防塵効果 |
| 3 気温調節効果 | 4 騒音改善効果 |
| 5 まぶしさの軽減 | |
| 6 貯水効果 雨水の排水施設負担軽減 | |
| 7 地下水への供給 | |
| 8 有機化学物質の定着 | |
| 9 大気汚染の制御 | |
| 10 二酸化炭素の変換機能 | |
| 11 火災被害の抑制 | |

芝生の持つ効能Ⅱ

レクリエーションへの効能

- | |
|------------------------------|
| 1 健康の増進 |
| 2 クッション効果による衝撃の軽減 |
| 3 屋外のスポーツとレジャーに低いコストで場を提供する |
| 4 芝生の手入れが軽い運動となる kcal / 時 |
| 芝刈り 458 草引き 295 |
| レーキ 222 整地 516 |
| テニス 446 バレーボール 204 |
| エアロビクス 421 ウォーキング(3 mph) 228 |

芝生の持つ効能Ⅲ

地域社会への効能

- | |
|-------------------|
| 1 花や樹木を引き立てる |
| 2 植物の持つ美しさの理解を強める |
| 3 精神衛生を改善する |
| 4 地域社会の調和を改善する |
| 5 仕事の生産性を改善する |
| 6 治療の効果 |
| 7 不動産価値を増やす |
| 8 生活の質的向上心を育む |

芝生の持つ効能Ⅳ

子供たちへの影響

- | |
|--------------|
| 1 外遊びの増加 |
| 2 怒りの低減 |
| 3 不安やイライラの低減 |
| 4 うつ傾向の低減 |
| 5 給食完食率の向上 |
| 6 全員登校日の増加 |
| 7 睡眠時間の増加 |

※Ⅰ～Ⅳについては、日本芝草学会校庭芝生部会の大会の研究発表等で提起されている

『話し合い』の開催には、演壇と受け手のような会場設定は不適切であり、また効果も薄い。椅子、机の配置にも配慮が欲しい。配布資料づくりには、メモがとれるようなスペースを多めにするなど工夫も必要である。また初参加者や前回欠席者のためにそれまでの配布資料なども用意したい。開催日は週末の午後に設定し、参加しやすい環境づくりをする。無記名アンケートを毎回実施し、次回に提供する資料集めの参考にする。アンケートの取りまとめや資料集めへの協力者を募り、会終了後に作業の分担などを打ち合わせる。これは中心メンバーの掘り起こしともなるので、是非実施したい。アンケートの疑問・質問への回答を準備するには、専門的な知識が必要になる。校庭の芝生化に詳しい人が身近にいない場合は、専門機関・団体等に問い合わせをすることを進める。

芝生管理についても、共通知識づくりから始める。どのような作業があり、その目的は何かを知ることができれば良い。

参考に(図—1～5)を示すが、条件により数値などは変わる。芝生管理まで進めば、共通知識は得られたと言える。実際に経験が無ければ、深い理解は無理と考えて余裕を持って頂きたい。

芝刈り

芝草の成長点は、地面近くの低い所にあります。一度に低く刈ると損なう恐れがあります。芝刈りは草丈の3分の1までが原則です。

芝刈り機の種類にはリール式・ロータリー式があり、それぞれに乗用モア・動力モア・手押しモアがある。

例 乗用ロータリーモア



施肥

スポーツなどでの利用によって受けたダメージの回復には、肥料が欠かせません。窒素・リン酸・カリウム(8・8・8)の粒状化成肥料で1回30～40g/m²程度散布します。

少量多回数が基本です。
施肥後は散水を行います。

肥料散布機



エアレーション

芝生土壌が固結すると、芝草の生育を阻害します。通気性や透水性を改善し土壌を柔らかくすることで、根の生育を盛んにすることができます。広い面積では専用の機械を使いますが、園芸用のスパイクなどで部分的に行うことは可能です。



園芸用スパイクによるエアレーション

散水

日本は降水量も多く、芝草の生育に必要な水分のほとんどは雨によってまかなえますが、梅雨・台風などの時期に片寄りがちです。

造成時・養生期・施肥後・播種後・夏の渇水期などに散水を行います。大量小回数が基本です。

目土

芝生の不陸を調整し、サッチ(枯れた芝草や刈りカスの堆積物)の分解を促進する。また芝草の根の乾燥を防ぐ目的で行います。新芽を増やし芝生の密度を上げる効果があります。



目土散布機



目土均し

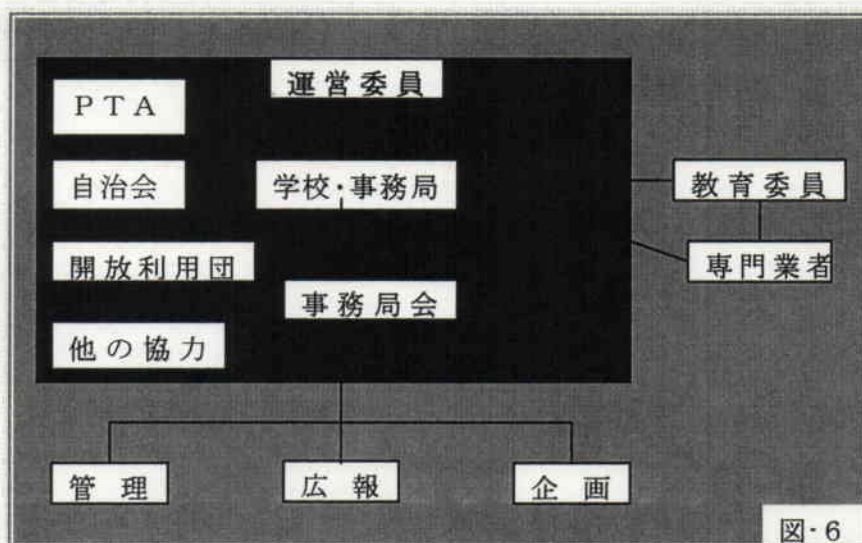
(3) 校庭芝生化の先進事例の視察

次の段階では、先進事例校の見学を行う。前稿で紹介されている練馬区立中村小学校や杉並区立和泉小学校では、地域との協働で得られた様々な知恵、工夫、情報があり大変参考になる。また実際に芝生を見ることは議論の質的变化を生む。共通知識があれば積極的な情報収集ができるし、受け入れ校への敬意を示すことにもなる。参加者アンケートも実施し、レポートを作成する。ここから先は地域色もあり、様々な議論が行われることになる。色々な立場からの意見を吸い上げ、どのような芝生にしたいのかを検討する。

このような『話し合い』を継続することで、校庭の芝生化最大の障害となる知識・情報が無いことに起因する反対は殆どなくなるはずである。共通知識の形成が進めば、プール、体育館、パソコンルームなどと同様に、芝生の校庭が学校に必要な施設であり、地域との協働・連携が大きな財産となることが理解できるであろう。

(4) 組織づくりに向けて

『話し合い』を進める中で熱心な協力者を見出すことができる。検討の結果を実現するための組織づくりでは、芝生管理に直接かかわる部門にあまり制限をつけないことが重要である。各部代表者を含めた事務局会議を中心に据え、自主性の発揮し易さに留意した組織づくりを考えたい。また保護者、地域の人材の中には、それぞれが様々な分野の専門家がいる場合がある。こ



れらの貴重な人的資産の活用も必要である。参考に組織図(図一6)を示す。活動部門は少ない方が機能しやすい。必要な案件があればバランスを取って各部に配分する。組織が機能することを優先し、

改編も含め都合の悪いことは早めに是正する。

3 活動を充実・発展させていくための組織の育成、ネットワークづくり

(1) 地域が中心になった組織づくり

教職員が中心の芝生管理では、異動により技術、知識、熱意の継承などが困難になることが考えられるので、地域を中心とした組織が必要となる。学校は、行政、専門家、地域との連絡、調整を担当する事務局機能を主に担いながら、必要に応じては地域側の中心的な役割を担う人材を学校と地域をつなぐコーディネーター役を担わせる仕組みづくりにより、学校の業務負担の軽減する仕組みをつくる可能性が考えられる。

また、地域は主に週末の管理、企画、広報などを担いながら、学校(月～金)、地域(土日)の作業の分担など、各学校の実情に応じた、管理計画を作成する。

(2) 効果的な芝生管理組織づくりに向けて

機能する芝生管理組織づくりに必要な条件としては、①先ず責任の所在がはっきりとした組織にすることがあげられる。②次に活動するための機器、資材があること。③専門家のアドバイスが定期的に受けられること。④活動のための予算があることなどが条件となる。組織を動かしていくのは形ではなく「人」であり、ボランティア活動でも役員の役割と言うよりは、芝生を通

した新しいコミュニティの創造の機会と位置づけたい。

維持管理組織を機能させるための方策として、広く地域の参加を求める。管理機器を整備し、作業負担を軽減する。専門家のアドバイスを受けられる体制を作る。管理の楽しさを広報する。他の芝生化校・施設との交流をはかる。見学会や講習会を開催する。芝生を活用したイベントの開催などが有効である。それぞれに工夫をして地域の特性を活かせるようにしたい。

活動上の注意点としては、安全確保は当然であるが、ボランティア保険に加入することも忘れてはならない。他にも、活動に関して詳細な説明を行う。活動記録を作成する。それぞれの得意分野を活用する。管理機器の日常的メンテナンスを実施する。懇親をはかる。提案の募集、実行を行うなどがある。

また参加者の心理的側面も無視することができない。わかり安い目標があり、実現可能に思えることや参加者の提案、動機が活動によって満たれると思えること。管理組織に参加することでプライドが持てて、互いに親しみを感じられるような配慮を望みたい。これらの期待に応えることができれば、芝生管理組織は十分に機能しているといえる。

（３）地域組織のネットワークづくり

新たな協力者の掘り起こしには、活動の広報は欠かせない。学校の催しに参加するだけでなく、主体的な活動として積極的に芝生を活用したイベント等の実施も検討したい。その際は、近隣地域にだけでなく、広く外に目を向けることも推奨したい。

継続的な芝生の維持・管理等を推進するには、地域の管理組織が果たす役割は非常に大きいにもかかわらず、互いに孤立した活動となっている現状がうかがえる。数校を除いて管理組織同士の交流は見られず、多くは自らの活動に手一杯の状況である。いくつもの学校で芝生管理の活動があり、そこには沢山の仲間がいる。相互の交流からは有益な情報が得られるし、人的な交流も生まれる。管理組織の交流会が円滑に実施されるようになれば、各組織の取り組みと課題の共有化をはかるだけでなく、求められる支援の内容や方法などについて現場からの声として発信することが可能になる。またそれぞれのノウハウをまとめ、新規に芝生に取り組む実施校や検討校への情報提供、相互の見学会や芝生管理作業の応援活動の実施や芝生イベント情報の提供など様々な活動を行うことを通じて、校庭の芝生化の拡大に寄与すると考えられる。

「芝生応援団グラス・ルーター」では、組織立ち上げからネットワークづくりまで様々な活動支援を行っている。スペースの関係で詳細には述べられなかったが、関心があれば当団体に問い合わせて頂きたい。

（芝生応援団グラスルーター代表 長倉亮一）

V 参考資料（校庭芝生化における地域との連携に関するアンケート）

1 アンケートの概要

都内の校庭芝生化の学校における地域との連携の現状等を把握するため、平成 19 年度末現在で運動場に芝生のある公立小・中学校 78 校に対して、別紙調査用紙によりアンケート調査を実施した。（有効回答数 67 校 回収率 85.9%）

（平成 21 年 1 月 教育庁地域教育支援部調べ）

2 集計結果

（1）芝生の利用開始年

この設問に回答のあった 67 校における芝生の利用開始年を図 1 に示す。最も早い学校で平成 14 年であった。中央値は平成 18 年である。

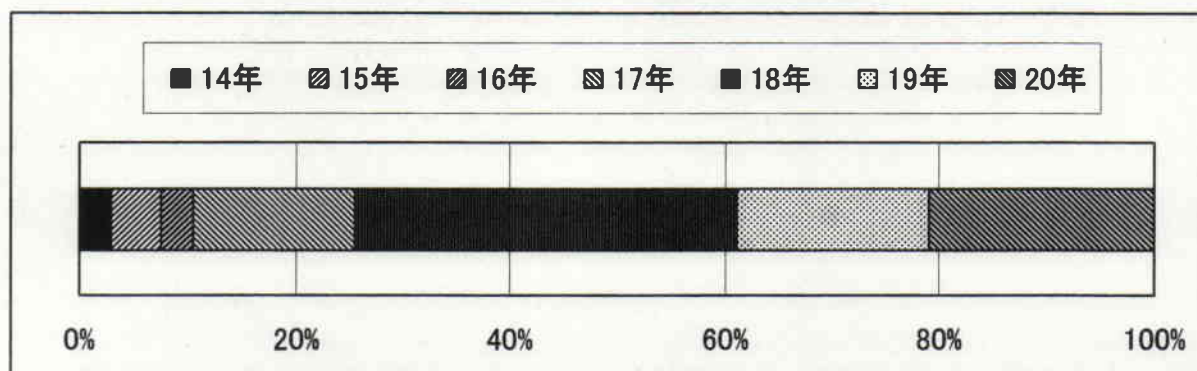


図 1 芝生の利用開始年

（2）運動場の芝生面積

この設問に有効回答のあった 67 校における芝生面積のと累積学校数を図 2 に示す。144 m²から 3600 m²までの開きがあった。300 m²未満が 7 校、300 m²以上 500 m²未満が 14 校であった。3000 m²以上は 4 校であった。

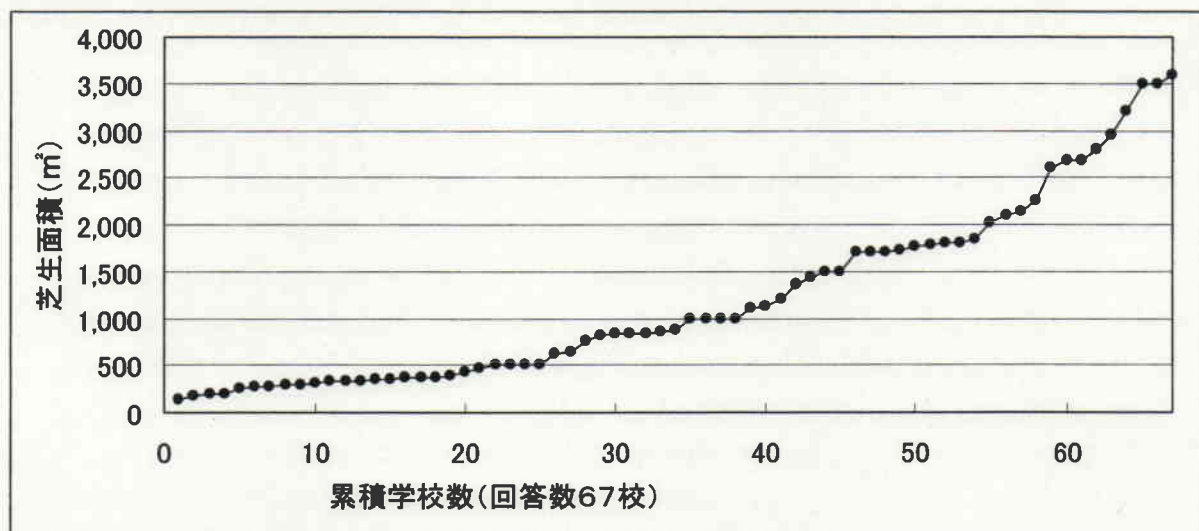


図 2 各校の芝生面積

(3) 一人あたりの運動場面積と芝生面積

図3に一人あたりの芝生面積の累積学校数を示す。有効回答 67 校中 49 校において 5 m^2 未満だった。一人あたりの面積が 5 m^2 以下であると、芝生の維持はかなり困難と思われる。ただし、一人あたりの運動面積を見ると図4のようになり、有効回答 61 校中、 5 m^2 未満は 7 校であった。運動場面積と芝生面積との関係は図5のようになっており、運動場の一部のみを芝生にした学校では一人あたりの芝生面積が小さくても、そこに利用が集中しなければ維持可能といえる。運動場自体の面積が一人あたり 5 m^2 以下の学校においては全面的な芝生化は困難であり、校舎から離れた利用の少ない場所における部分的な芝生化に留める方が無難である。ただし、 5 m^2 以下の学校においてもしっかりとした管理体制の下で芝生が維持されているところもある。

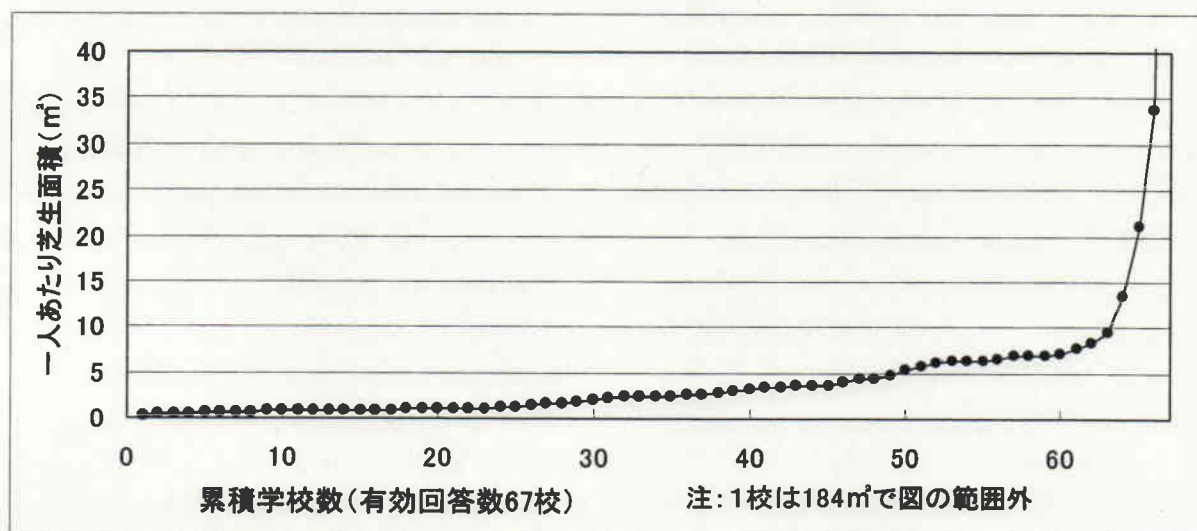


図3 1人あたり芝生面積

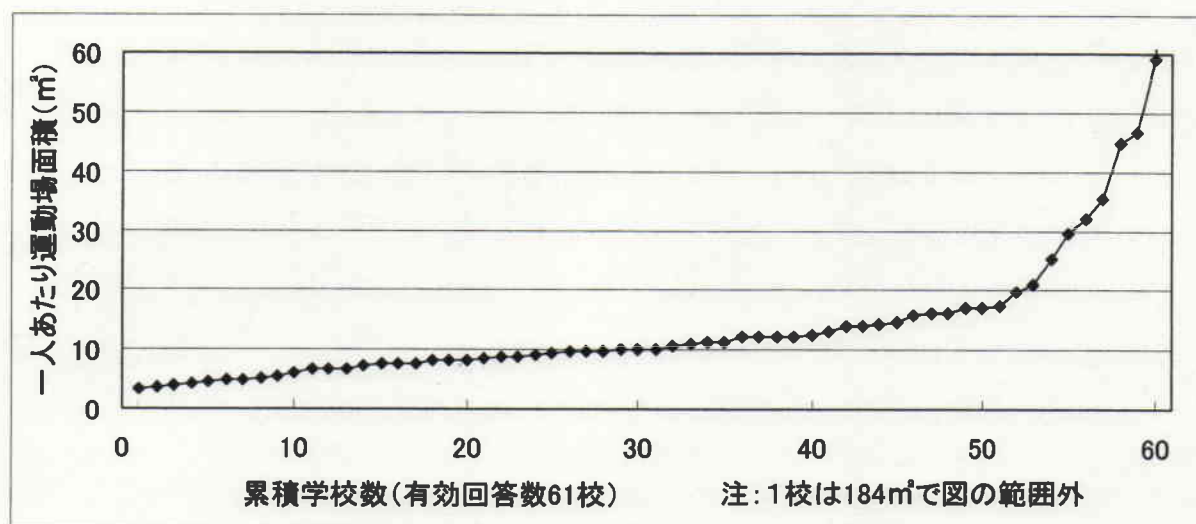


図4 1人あたり運動場面積

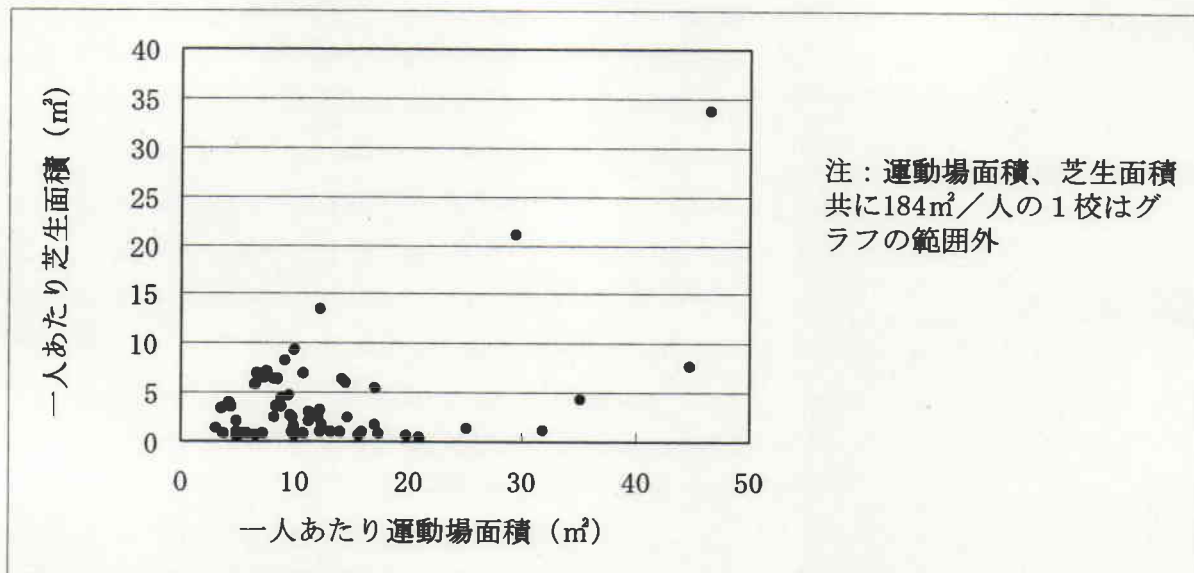


図5 一人あたりの運動場面積と芝生面積

(3) 芝生管理の従事者

児童・生徒、教職員などが何らかの芝生管理作業に従事している比率（参加している学校数／全学校数）を図6に示す。

教職員が管理作業を行っている学校は6割強、児童・生徒が管理作業に参加している学校は4割強、保護者の参加は37%、地域団体等の参加は35%であった。業者に作業を委託している学校は52%であった。

芝生面積ごとにみた管理従事者を図7に示す。保護者や地域団体は面積が大きくなるほど参加率が高くなっている。児童・生徒の参加は300㎡未満では14%程度なのに対し、500㎡以上では多くの学校で実施されている。

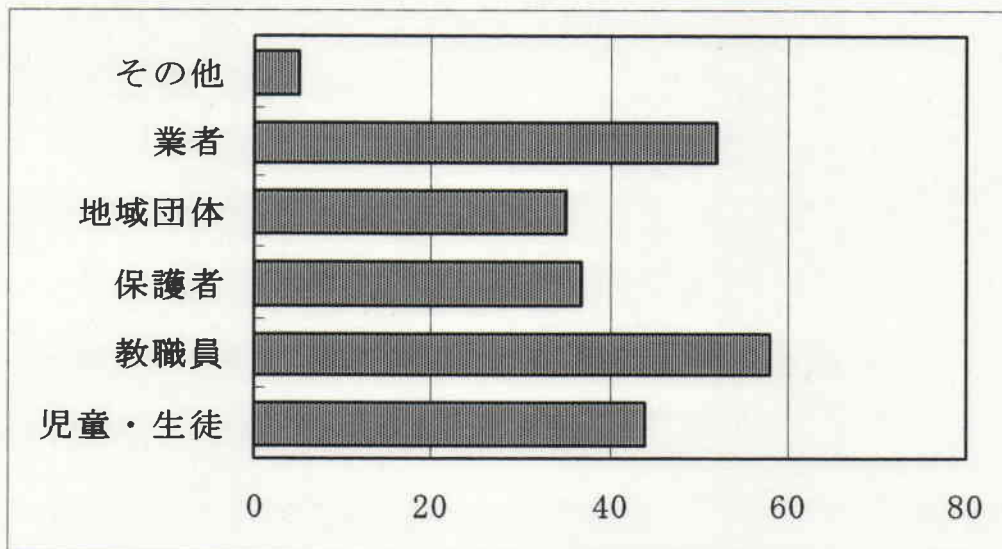


図6 芝生管理作業への参加割合（参加している学校数／調査対象学校数）

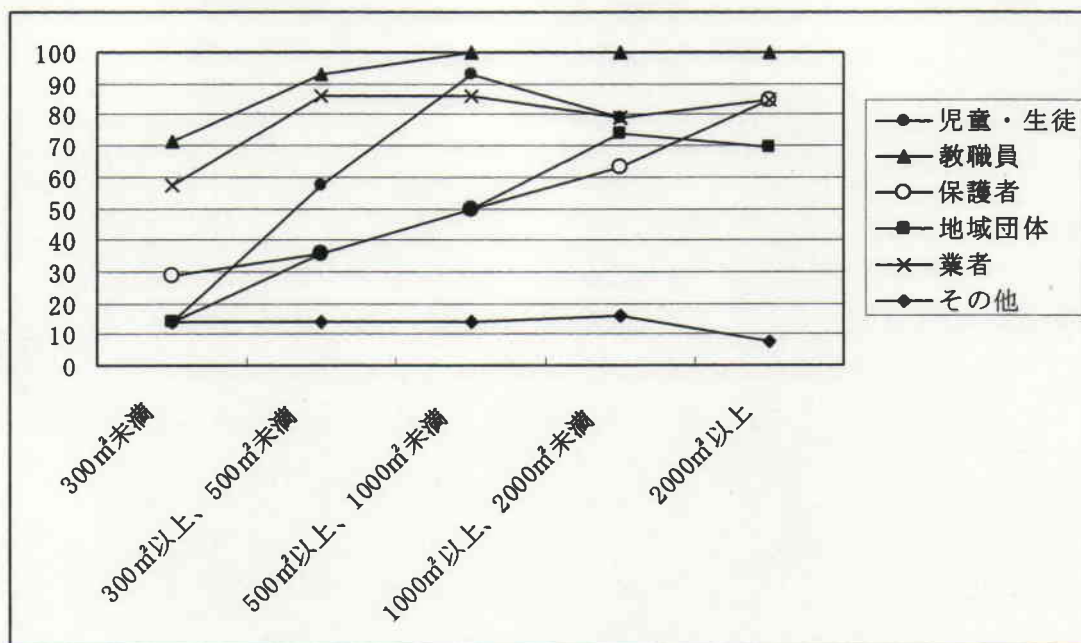


図7 芝生面積別にみた芝生管理作業への参加割合

(4) 芝生管理の作業内容

芝生管理に関する各作業の実施率を図8に示す。

芝刈は64%、施肥は63%であった。アンケート用紙への記入によるものなので、実際の実施率はもう少し多い可能性もあるが、芝刈作業のない学校は踏圧のために草高が高く伸びていないためと思われる。

芝生面積別にみた各作業の実施率を図9に示す。300㎡以上の間では大きな差はないが、300㎡未満では多くの管理項目で実施率が低くなっている。

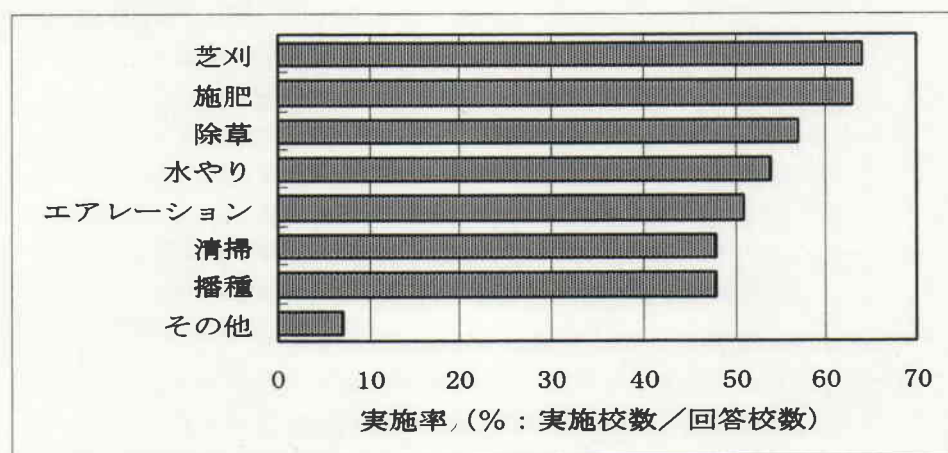


図8 各作業の実施率

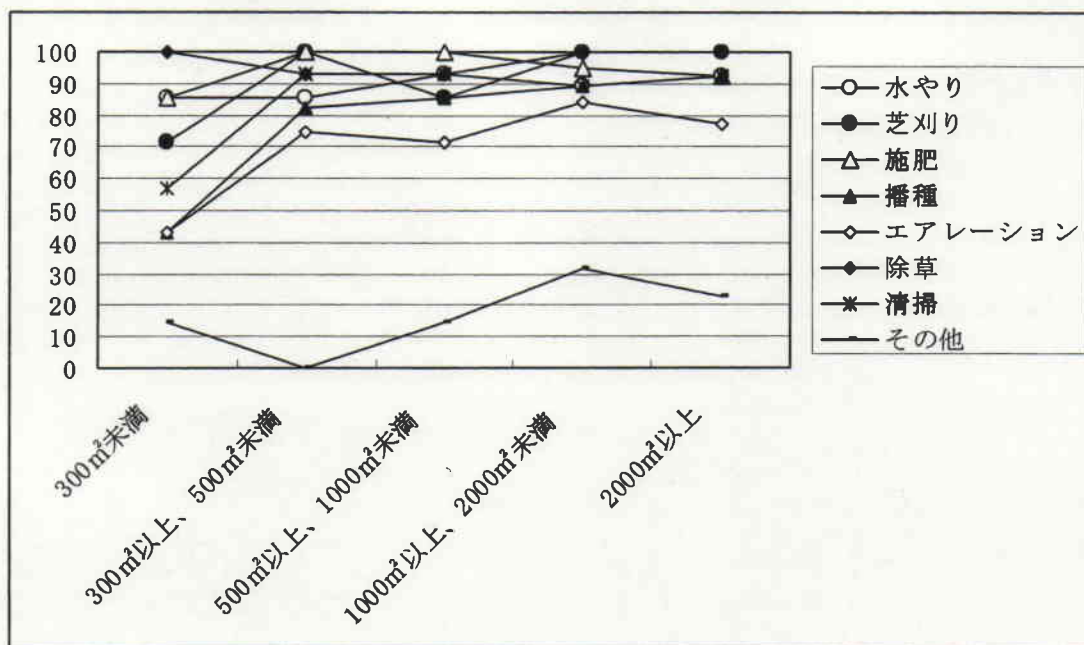


図9 芝生面積別にみた管理作業の実施率

各作業の実施頻度を図10に示す。

水やり、清掃、除草の順に作業回数が多い。どの項目についても学校間の差が非常に大きい。水やり回数について1年の日数を超える回答があったが、1日に2回以上行う回数を数えたためと思われる。

平均すると水やり：192回、清掃：55回、除草：25回、芝刈：25回、施肥：7回、エアレーション：3回、播種2回、その他：44回であった。その他の作業で回数が多いのは養生シートの開け閉めであった。

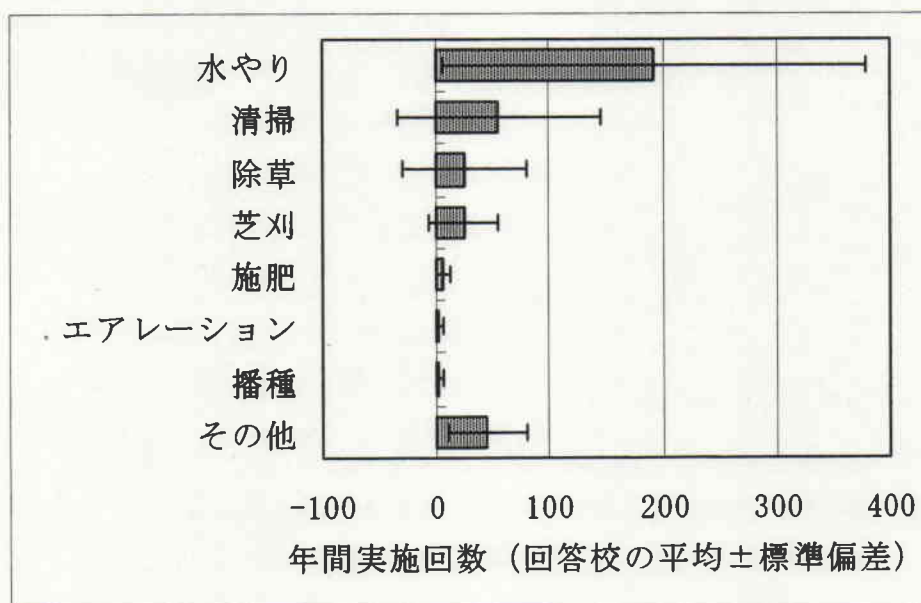


図10 各作業の年間実施回数

各作業の従事者を図 11、12 に示す。図 11 と 12 は同じ内容を表現を変えて示したものである。

図 11 から以下のような傾向が見られる。水やりは教職員が行うことが多い。芝刈、除草、清掃は教職員を中心に、児童・生徒、保護者、地域団体、業者が辞ししている。施肥は業者ないし教職員、播種とエアレーションは業者の実施が最も多く次には教職員である。

図 12 から以下のような傾向が見られる。教職員が行っている作業としては水やり、清掃、除草、芝刈り、施肥の順、児童・生徒が行っている作業としては除草、芝刈り、清掃、保護者や地域団体が行っている作業としては芝刈り、施肥、清掃の順となり、業者への委託は施肥、エアレーション、播種が多い。

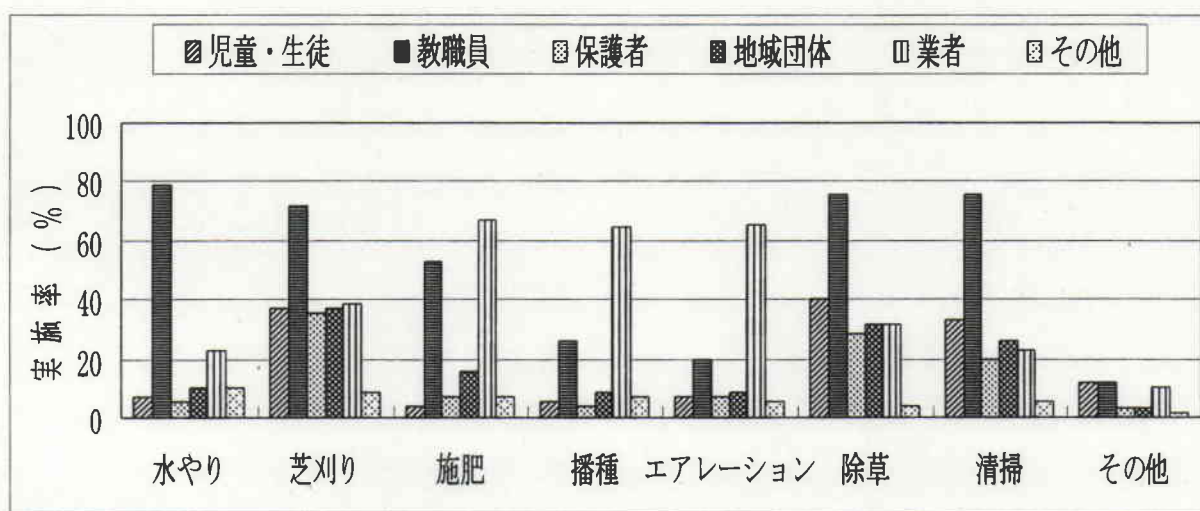


図 11 各作業の実施者

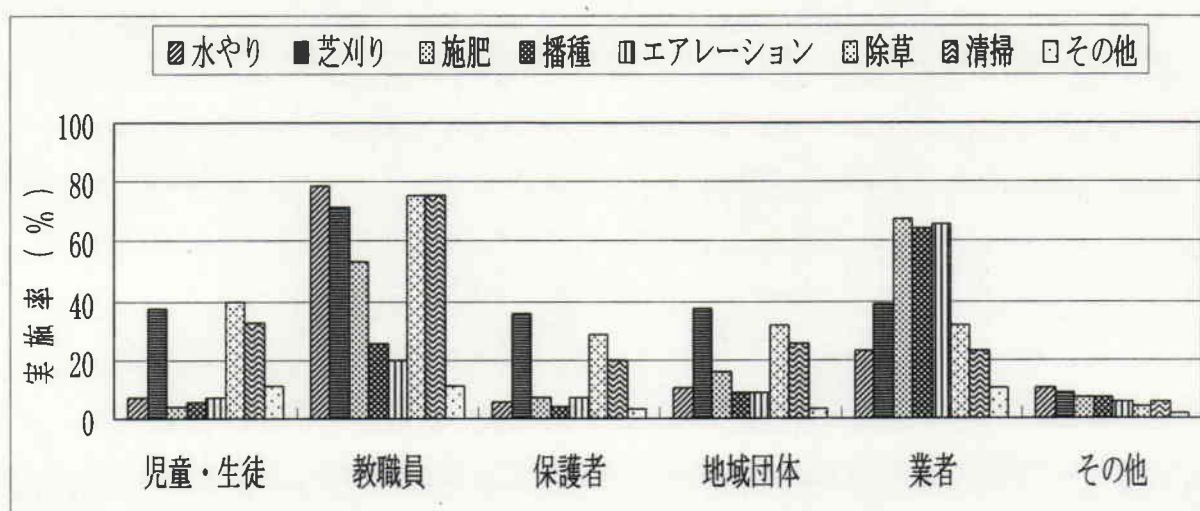


図 12 各作業への参加割合

(5) 作業への参加組織

図 13 に児童・生徒の参加方式を示す。3 割ほどの学校では学年や組単位で管理作業を行っている。続いて委員会、全校一斉、部活（運動部）、部活（芝生・園芸等）などの方式が見られる。

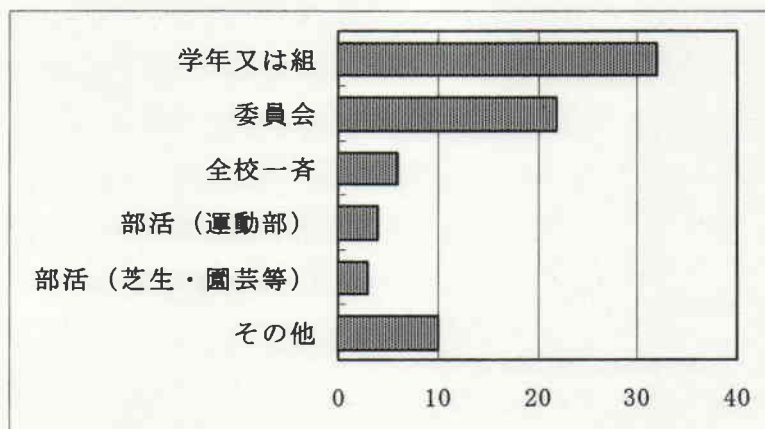


図 13 児童・生徒の参加方式

図 14 に、保護者、地域団体等の参加方式を示す。約 3 割の学校で、芝生管理の新たな組織を立ち上げていた。校庭開放団体の参加は 2 割強、他に PTA 役員、PTA 委員会、おやじの会などの例がある。

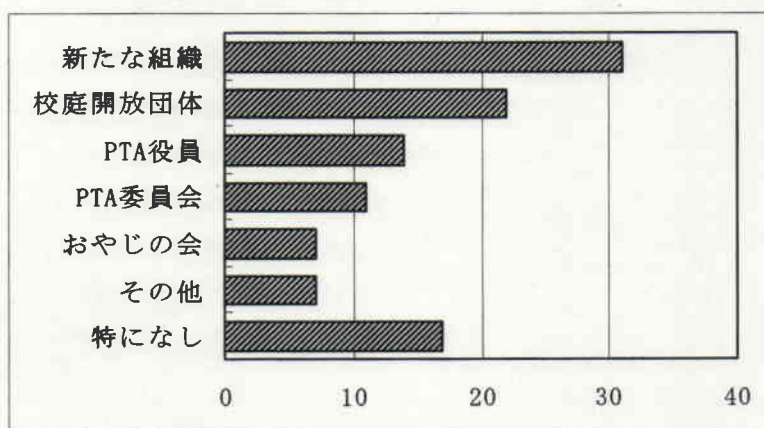


図 14 保護者、地域団体等の参加方式

地域との連携の状況について図 15 に示す。約 3 割の学校では地域との連携が問題なく良好に機能している。約 2 割の学校では現状においては地域との連携を必要としていない。

同じ内容を芝生面積別にまとめたのが図 16 である。芝生面積が 500 m²以上の学校では、芝生面積が狭い学校に比べると良好に機能している学校の割合が高い。それでも現状では良好に機能しているとの回答は 4 割弱であり、今後の工夫が必要である。300 m²未満の学校では、協力を必要としていないとの回答が多い。300～500 m²の学校では、地域との連携を求めたいが現状ではできていないとの回答が多い。

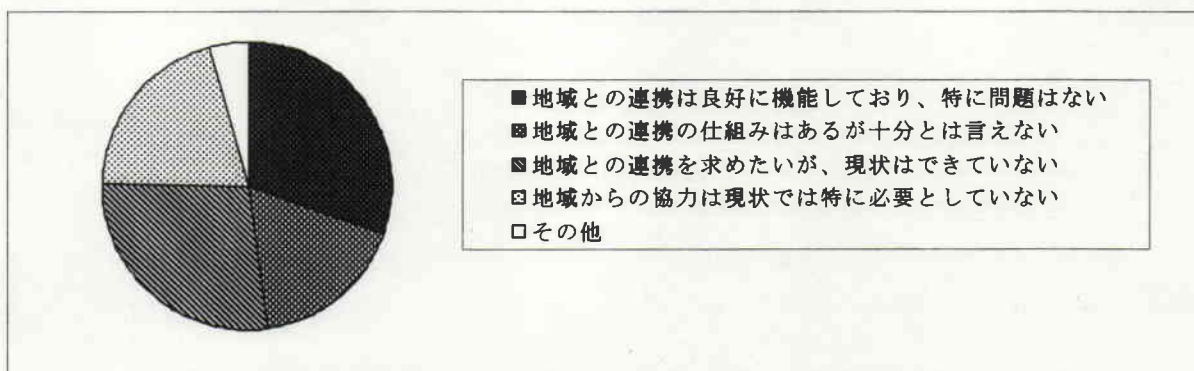


図 15 地域等との連携の状況

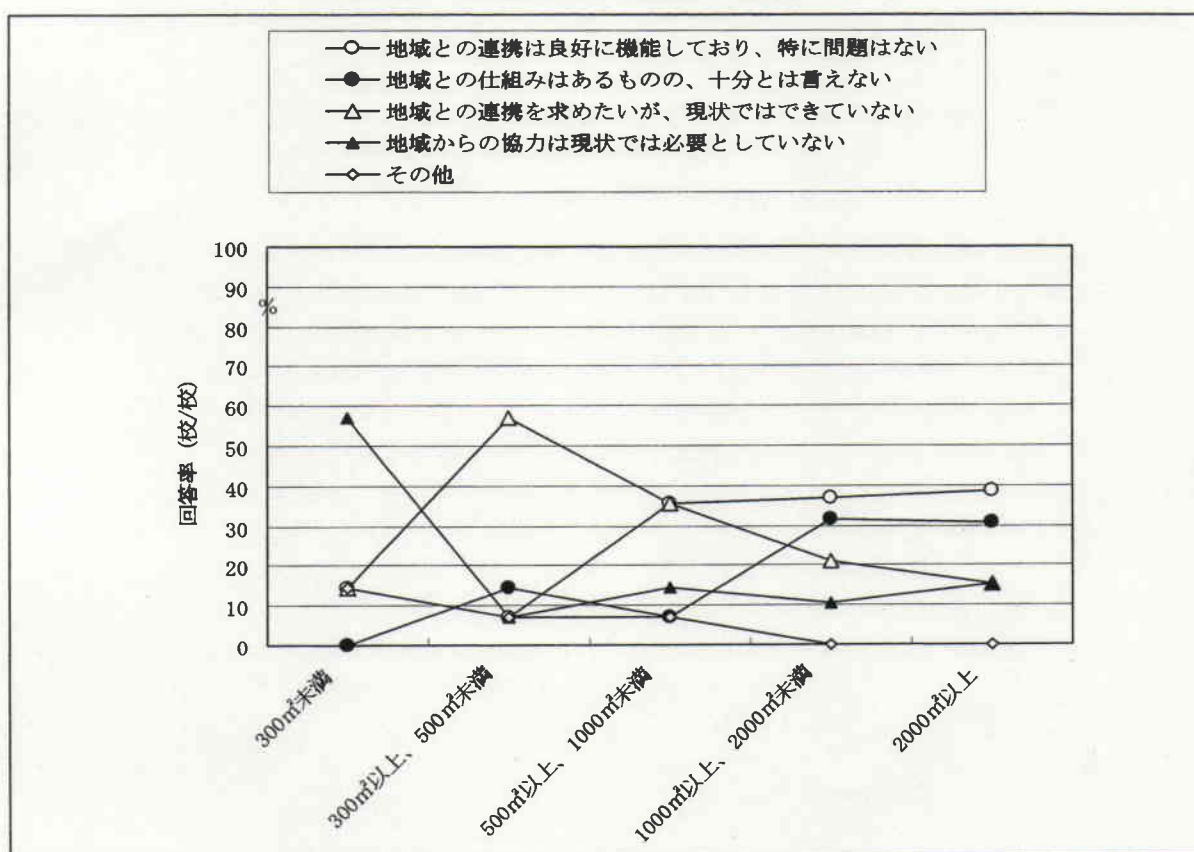


図 16 芝生面積別にみた、地域との連携の状況

地域との連携についての課題を図 17、18 に示す。この問いは前の質問において「地域との連携は良好に機能しており、特に問題はない」と回答した人以外を対象に質問している。

約 3 割は地域の連携は特段必要としていないと回答している。特定の人だけに活動が集中して活動の輪が広がりにくい、地域が関わることにより学校に一層の負担がかかる懸念があるなどの回答もそれぞれ 2 割を越えている。これらの問題を解決することも今後の課題である。

図 18 は図 17 と同じ内容を芝生面積別にまとめたものである。

300 m²以下の芝生面積では、地域との関わりを必要としていないとの回答が7割程度あるが、面積が増えるにしたがってこのような回答は減っている。

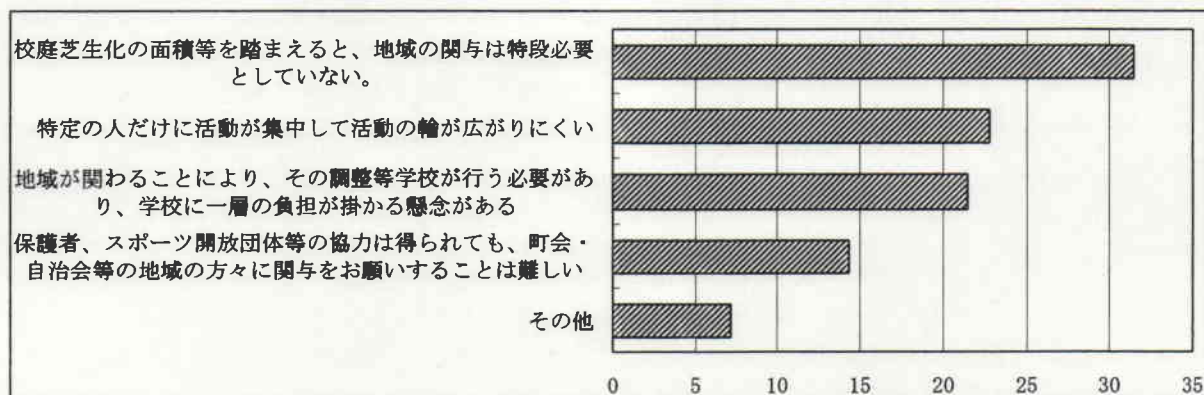


図 17 地域との連携についての課題

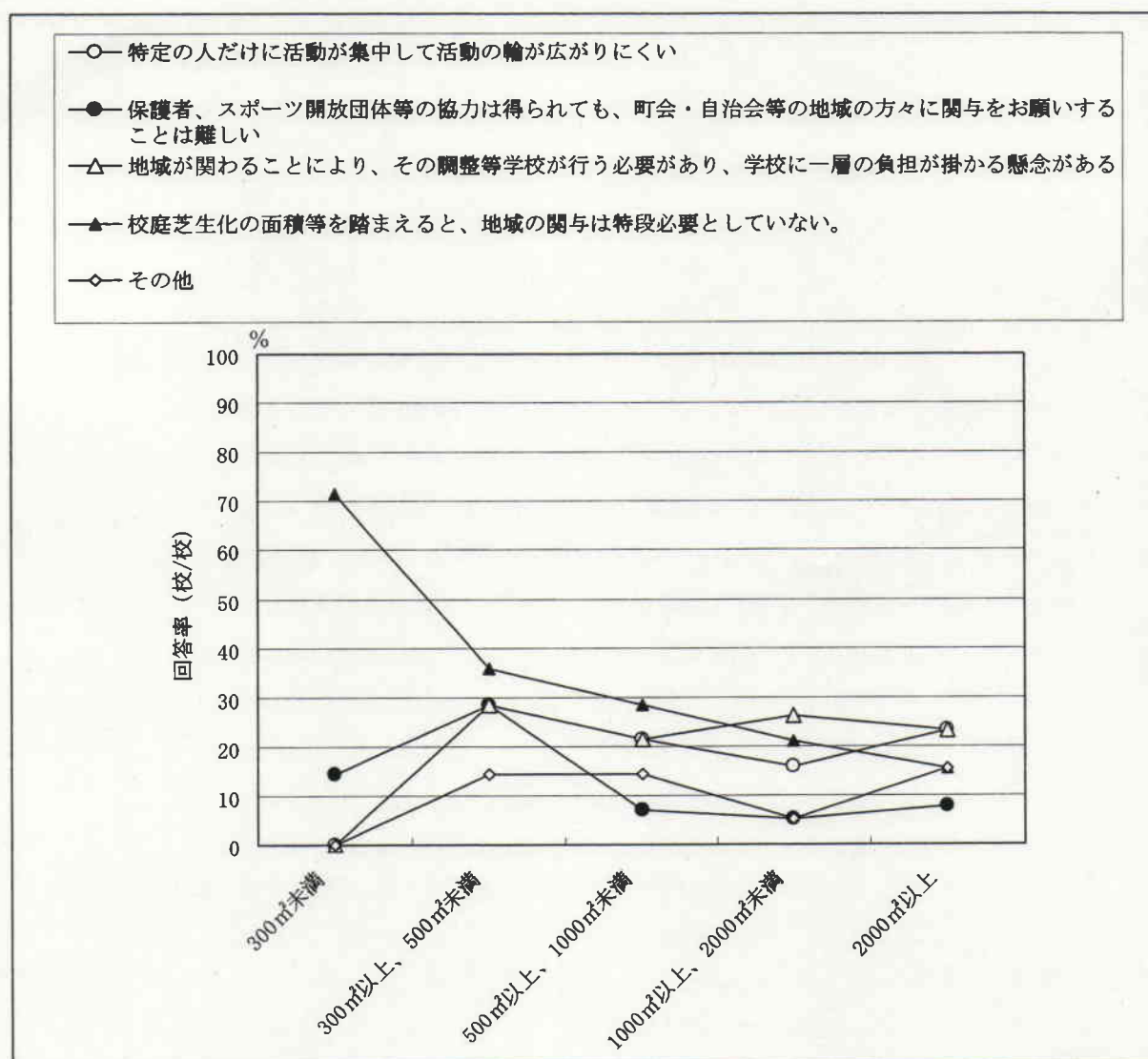


図 18 芝生面積別にみた地域との連携の課題

(6) 地域との連携から生まれた芝生関係の行事など

以下のような様々な企画について回答があった。

防災訓練、ふれあい給食会、ラジオ体操、校庭キャンプ、野点、児童館縁日、グランドゴルフ大会、ターゲットバードゴルフ、野外映画会、防災まちづくりイベント、グリーンコンサート、スナッグゴルフ、フライングディスク、やきいも、野菜の試食会など、校庭の芝生化を活用した地域のコミュニティづくりの機会や子供の健全育成の取り組みが行われている。

校庭芝生化における地域との連携に関するアンケート（調査用紙）

学校名

回答者職・氏名

電話：

1 貴学校の校庭の芝生化の概要を伺います。

(1) 校庭の芝生化の施工等の実施状況について

①校地面積 _____ m² ②運動場面積 _____ m² ③芝生面積 _____ m²
④芝生化工事開始 _____ 年 _____ 月 _____ 日 ⑤芝生化後の利用開始 _____ 年 _____ 月 _____ 日

(2) 校庭芝生化の位置について、当てはまるところすべてに○をつけてください。

トラックの内側	トラック部分	トラックの外側	その他

※その他の部分に○をつけた場合は、その場所を記入してください。

()

2 校庭の芝生化に関する維持管理等について伺います。

(1) 芝生の管理にはどのような方が係っていますか。該当する箇所に○をつけてください。

	水やり	芝刈	施肥	播種	エアレーション	除草	清掃	その他
児童・生徒								
教職員								
保護者								
地域団体								
業者								
その他の関与者								

※その他の作業やその他の関与者に○をつけた場合は、その内容を記入してください。

()

(2) 各作業の年間実施回数はおおよそどれくらいですか。

	水やり	芝刈	施肥	播種	エアレーション	除草	清掃	その他
年間回数								

※その他の作業に回数を記入した場合は、その他の内容を記入してください。

()

(3) 芝生管理作業に参加する回数はおおよそ何回くらいですか。

	児童・生徒	教職員	保護者	地域団体等	業者	その他
年間作業参加回数						

(4) 児童・生徒の芝生管理への参加形態について、あてはまるものにすべてに○をつけてください。

全校一斉	学年又は組単位	委員会	部活動（芝生・園芸等）	部活動（運動部）	その他

※その他の作業に○をつけた場合は、その内容を記入してください。

()

(5) 保護者や地域団体等の芝生管理への参加形態について、あてはまるものにすべてに○をつけてください。

PTA 役員	PTA 内の委員会	おやじの会	校庭開放団体	新たに設置された組織	特になし	その他

組織名称 ()

※団体の規約、協力者の募集や活動周知のチラシなどあればお送りください。

(1) 芝生の維持管理について、地域（保護者を含む）等との連携状況はいかがですか。

オ その他（ ）

ア	イ	ウ	エ	オ(その他)

オ その他（ ）

ア	イ	ウ	エ	オ（その他）

保護者、地域等との連携による校庭の芝生化に関する事項について、ご意見等があればご記入をお願いします。

VI 校庭芝生関係団体、学校等の連絡先等

○日本芝草学会校庭芝生部会	E-mail	kf284@yahoo.co.jp
○芝部応援団グラス・ルーター	E-mail	grhq@xqj.biglobe.ne.jp
○中村小学校グリーンキーパーズ	HP	http://www.shibafu.jp
○和泉グリーンプロジェクト	HP	http://izel.sakura.ne.jp/izumi/modules/wordpress2/

VII 地域教育推進ネットワーク東京都協議会

教育環境整備部会（校庭芝生化委員会）の委員名簿

氏 名	所 属 等
池 田 弘 彦	和泉グリーンプロジェクト
中 島 修 一	練馬区立中村小学校長
長 倉 亮 一	芝生応援団グラスルーター代表
名 川 一 史	中村小学校グリーンキーパーズ代表
藤 崎 健一郎	日本芝草学会校庭芝生部会会長 日本大学生物資源科学部造園緑地学研究室